

拝啓 新任教職員の皆さん

馬場 久志 (埼玉大学)

今年の春、新たに教職員となった皆さん。お元気でいらつしやいますでしょうか。

あこがれの先生になり期待に胸をふくらませて学校に着任してから、1学期が過ぎましたね。教員養成に携わる大学教員として、皆さんが元気にやっているかな、仕事には慣れたかな、どんな出会いがあったかなと、思いは尽きません。きつと毎日が夢中で、先輩教職員や人生の先輩である保護者やいろいろな人たちに学びながらの日々なのでしょうね。失敗もたくさんあったのではないかと思います。若い皆さんはそれをバネに努力しているのでしょうか。子どもたちは皆さんのような若い先生が大好きです。子どもたちと向き合ったこの1学期で、子ども一人一人が個性を発揮し生き生きと活躍する未来社会が想像できるようになつたでしょうか。

さて学期を終えるここで、子どもの成長を精緻にとらえる近焦点からぐっと視角を広げて、社会の動きを見てみましょう。そこには子どもの未来を曇らせ、教育の営みを台無しにする動きがあります。報道でご存じのように、いわゆる集団的自衛権の行使へと道を開く動きが急です。これは私を含め皆さんも歴史の教科書でしか知らない戦前の軍事同盟の再来といえるものです。紛争の当事者に日本と同盟関係の国家があつたら日本も軍事行動を起こすことが可能になります。世界で活動する日本人を守るといふのは根拠のないことで、紛争地域で暮らす人々に貢献する日本人が信用されているのは、戦争を放棄した憲法の国からやって来たためであることは、多くの当事者が語っています。軍勢力への依存は紛争の制圧どころか殺戮の相互報復をもたらしています。そのような愚策ではなく、これからの世界に生きる人々には、対話力で問題解決することが求められています。いろいろな注目されているPISAですら、根底には価値観の異なる者との問題調整能力があると考えられます。私たちにとっては、そうした対話力のある子どもたちを育てることが教育の使命であり、目標であるはずで、戦争を当然視する政治の動きに対して、平和な手段で平和のために尽くす人を育てる皆さんの教育実践が実を結ぶよう、応援します。

ところで足もとをご覧ください。皆さんの勤務生活はいかがでしょう。健康で生き生きと働くために、職場環境や勤務条件を改善する努力をしましょう。これは自分のためだけでなく、子どもたちにとって働く大人のモデルである教職員の務めだと考えます。職場でざくばらんに話し合い、困っている一人のために力を尽くす組合の活動にも目を向けて、皆さんののびのびと力を発揮できることを願っています。

皆さんが頼もしい先生として成長し、オンもオフも自分らしく元気に過ごせるよう、心から祈っています。